【foR-Fプロジェクト】

脱炭素型エネルギーシステムの構築：水素をつくる・つかう技術の多様化

（共生システム理工学類：大山　大（代表）・浅田隆志）

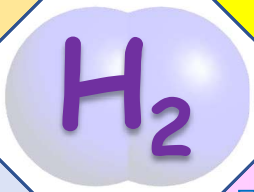
1. 背景

- 水素ガスの多くは化石資源由来
- 水の電気分解施設もいまだ研究段階(FH2R)
- 商用での用途は燃料電池が殆ど
- 工業用に使う場合，大量のエネルギー投入を伴う

2. 目的

（つくる）県内に広く分布するバイオマスを起源とした水素製造法の新規プロセスの開拓

（つかう）水素を化学原料とし，これを温和な条件で様々な物質へ導入して高付加価値な工業原料を創出

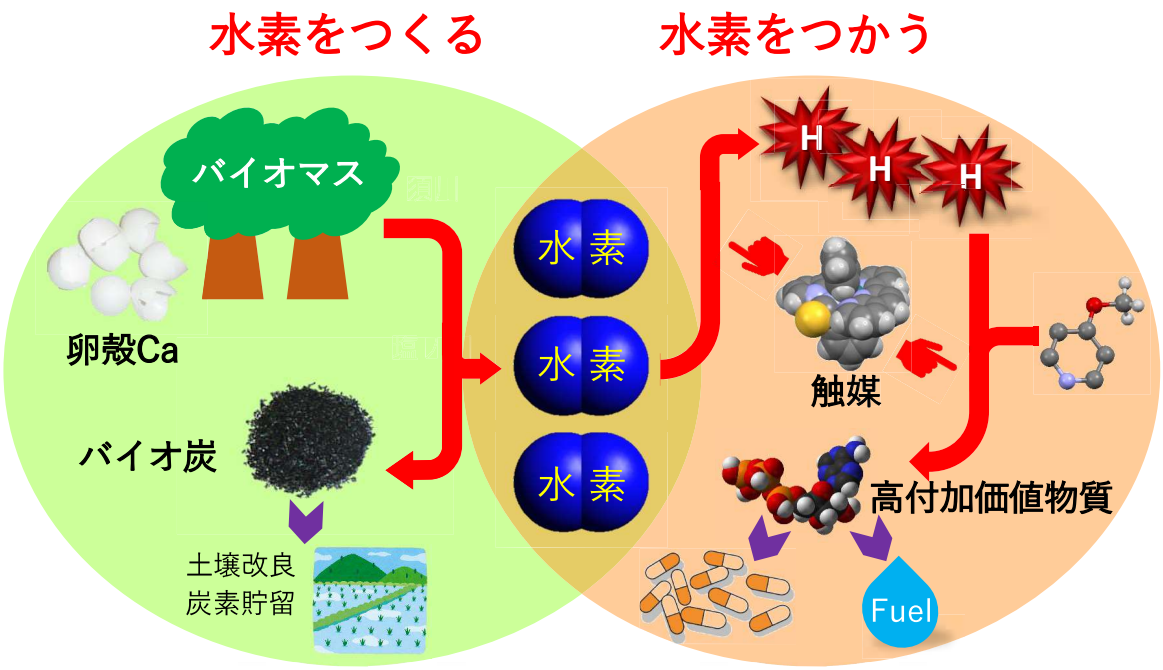


3. 必要性

- （政府）2050年までにカーボンニュートラルを実現
- 水素は福島新エネ社会構想の柱
- 水素社会実現には多様な水素の製造及び利用法の開発が不可欠

4. ゴール

県内自治体や民間企業等と連携して水素の利活用を促進する。

水素の需要と供給をともに底上げし，水素社会の実現，さらにはカーボンニュートラル実現に貢献する。

水素プロジェクトの全体イメージ